

## エコレザー座談会

野田 耕平氏

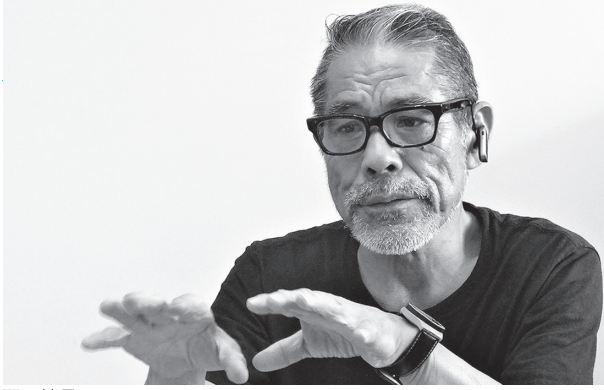
((有)ヴァード社長)

吉村 圭司氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)

稲次 俊敬氏

(NPO法人日本皮革技術協会 副理事長)



野田社長

# 地球と共生でできるエコレザーで アバンギャルドな革衣料を提案

### 革のクリーニング勉強会で 革の知識を吸収

**吉村** 今回のエコ座談会は、岐阜県各務原(かがみはら)市にある革衣料メーカー・ヴァードの社長、野田耕平様に出席いただきました。日本エコレザー認定の革を使って、先進的なデザインで、主に紳士ものの革衣料を作っているメーカーです。2009年度には、経済産業省が選定する「元気なモノ作り中小企業300社」の1社に選ばれています。  
はじめに、ヴァードさんが革衣料を手がけるまでの経緯からお話してください。

**野田** 来年で創業30周年になります。



工場内

す。創業以来、一貫して「メイド・イン・ギフト」にこだわって革衣料の製造を続けてきました。自社での企画・提案・生産にこだわり、加工の常識にとらわれず、挑戦的な精神を育み、革新的な技術を生み出す努力を怠らないことをモットーにしています。

濃地域(岐阜県南部、川島町)にあり、実家も紳士服用のウール系の糸を作る撚糸屋でした。大学卒業後、親との約束で10年間、家業を手伝いました。私としては撚糸よりも製品の仕事がしたく、32歳から岐阜にあるアパレル企業に務めました。そこで革衣料の部署に配属され、革との関わりが始まりました。

**吉村** 革についてはたいへん詳しいようですが、革の知識はどこで勉強されたのですか？

**野田** 当時の担当部署には、革に対するいろいろなクレームが寄せられていました。

しかし、私自身が駆け出しで未熟

#### 日本エコレザーの6つの条件



- 1 天然皮革である
- 2 発がん性染料を使用していない
- 3 有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- 4 臭気が基準値以下
- 5 適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- 6 染色摩擦堅牢度が基準値以上



吉村氏

だつたものですから、適切な回答ができませんでした。革衣料のクリーニングの知識を得るために、たびたび白洋舎(大阪・吹田市)の中央研究所に相談に行きました。その時に、その近くに、本日出席の稲次さんが所属していた大阪府立産業技術総合研究所皮革試験所を紹介されました。そこでは、定期的に革の勉強会が開かれており、参加することになりました。

私はクリーニング部会に参加し、革のことを深く学び、革が非常に面白い素材であることを知り、その奥深さと魅力に取り付けられました。

**稲次** それは、この勉強会(旧関西皮革衣料研究会)が設立される数年前から、革衣料が爆発的に売れており、クリーニングの需要が始まるころでした。

しかし、当時はクリーニング店も革の取扱について十分に理解されていないところがあり、ひどい仕上がりのものでありました。消費者からは「革が悪い」と主張し、一方で、革を扱う会社は、「洗えないものを洗うほうが悪い」というだけで、責任のなすり合いでした。



ヴァードの社屋

これでは、いずれ消費者に見放され革衣料が売れなくなると思い、まずお互いの現状を知り、理解しあつた上で情報交換する場として、関西皮革衣料研究会(現皮革消費科学研究会)という集まりを、私どもの試験所が事務局となつて始めました。

当時、大丸百貨店さんには積極的に応援して頂きました。皮革専門のクリーニング店(ホールセール)の集まり(協会)2団体ほか、衣料革の縫製メーカー、在阪の百貨店のバイヤーや品質管理担当者、大手アパレルメーカー、消費生活コンサルタント、革衣料を手がけていたタンナーにも参加して頂きました。

革衣料に係る川上(タンナー)から川下(消費者)にわたる構成メンバーで、業界間の相互理解、高品質な革製品の製造、革の需要拡大とメンテナンス

ンス技術の向上を目指して勉強会を始めました。

### 革の種類や使う部位から衣料のデザインを考へる

**吉村** 糸と比べて革の魅力は、どういふところですか？

**野田** 反物は撚(より)をかけた縦糸と横糸を織つたもので、人間が作ったものです。色の染めも均一にできません。それに対して革は、同じ色を染めても部分差、個体差があります。例えば、革衣料において脇の部分と袖の部分では色が違ふことがあるなど、非常に難しい素材です。

伸び縮みも糸なら縦方向、横方向に均一ですが、革はランダムであることが面白いのです。また、人間の肌と同じように、温度や湿度といった環境で縮んだり伸びたりして、着用する人に馴染んでいきます。

**吉村** 革衣料は縫製の難しさもあるでしょう。

**野田** 人類が最初に手にした素材は皮革だと思えますが、部位によって厚みや強度、延び、繊維方向にも違いが



手前のバッグの背にはドクロの型押しがされている



野田社長

あるんですね。

革を使って衣料を作る際に、どの部位の革をどこに持つて来れば軽く、着やすいものになるのかを考えなくてはなりません。革衣料として伸びなければならぬ部分と伸びてはいけない部分があるので、革の部位による伸び縮みを十分に考慮することで、着やすい衣料になります。

こういったことは、動物の種類によっても違うし、クロム革なのかタンニン革なのかというなめしの違いでも全然違ってきます。それを衣料にしていくことは非常に難しいことです。

これらの革の特性を理解した上で、革へ型入れをしたり裁断をしたりすることになるわけです。このような工程は卓越した加工・縫製技術と商品開発力という熟練技術が必要とします。私どもでは、この経験豊富な職人さん（匠ともいふべき人達）の高齢化と技術の伝承に危機感を持っており、これ



ドクロの型押し製のプルゾン

が大きな課題となっています。当社の製品は国内生産にこだわっており、若い後継者達が日夜、その技術を習得すべく努力をしているところです。

一方、日本の優れた縫製技術を後世に引き継ぐために、DVDに記録として残すことを考えました。稲次さんのご尽力で（二社）日本皮革産業連合会のご支援の下に「レザーウェア革衣料のできるまで」を昨年完成させることができ、喜んでいきます。

### カジュアル衣料こそが、革素材が向いている

**吉村** 今日、スニーカーなどの人工素材は、未来的な進化が著しく人気ですが、革素材の需要については、今後どうなりますか？

**野田** 最近の革衣料は、若い人たちでも気軽に着られるような価格に下がってきており、客層の広がりを感じます。また、ストリート的なデザインなどカジュアル化しており、若い人たちのニーズに合い、需要は増えていると思います。

カジュアル用の革は、素材の王様だと思っています。いろんなデザインに挑戦できそうな可能性を秘めています。

す。当社のようにマニアックなモノ作りも続けていけば、いずれそれがノーマルになり、スタンダードになってくるのがファッション業界の特徴です。

**稲次** 特異な製品としては、ジャケットの腕の部分やバッグ中に、ドクロの立体的な型押しをした製品がありますね。

**野田** これはタンニンレザーに水を掛けながら、木型を押し付けて形にしました。これなどはクロムの革ではできません。私は何を作るにも最後まで徹底してやる性格で、型を付ける木型づくりのため奔走し、福井の欄間職人の工房にまで行きました。

イタリアのリネア・ペッシにそのジャケットを着て、バッグを背負って行ったところ、多くの人の目に留まり、「オー！クレイジー！」と称賛の言葉を頂き、大きな手応えを感じて帰ってきました。

### 消費者のエコ意識は高く、エコレザーが当たり前になる

**吉村** そういったアバンギャルドな製品に、日本エコレザー認定の素材を



稲次氏

使っているのは、どっちいう狙いからですか？

**野田** 社名のヴァード (Vard: Value Added Revolution and Development) という社名は、付加価値と進化を合わせた造語です。私の考える付加価値とは、素材をいかに価値のあるものに高めていくか、を考える知恵だと思っています。

ジャケットに使っている革も、日本エコレザーの認定を取っています。エコレザーを使うことの大切さを教えていただいたのは稲次さんでした。私自身も3・11東日本大震災以降、地球について考え、エコとか循環することの大切なことを考えるようになりました。燃やすことで有害物質を大気に排出することになる、合成皮革

や人工皮革のような石油製品では、土に返すことはできず、地球との共生はできないことを知りました。

アップレル業界において革衣料が年々低迷していた中で、このエコレザーを用いた革衣料が現在の消費者の訴求と合致すると考え、ある大手アップレルと共同企画しました。3アイテム合計1000着つくり、全国の百貨店で販売したところ、わずか1カ月足らずで完売するという成果を得ました。

これは、革素材に日本エコレザー認定取得革を採用しただけでなく、戦略的に販売員一人ひとりに、エコレザーについて事前に詳細にプレゼンしていたこと、エコレザーの趣旨を謳った三つ折りの葉(しおり)を添付したことも奏功しました(詳細は本誌

15年12月号 P 32 ~ P 34 に掲載)

**稲次** そついったモノづくりの姿勢に対して、お客さまからは評価されていますか？

**野田** 表立って言われることはありませんが、先にもご紹介したように、消費者の皆様にとってエコに対する意識は非常に高いようです。価格的にはちょっと高いかもしれませんが、こちらのほうがいい、というお客様が増えていきます。

この革は土に返ります、ということをお客様で丁寧にアピールすることも大切でしょうね。浸透するにはまだまだ時間が掛かると思いますが、エコレザーを使うことが当たり前になるよう、これからも使い続けたいですね。